

ヨモギ

Artemisia princeps

| | | | | | |
|-------------------|---|----|---------|-----|---------|
| 種名 |  | | | | |
| 分類 | 被子植物双子葉合弁花類キク科 | 俗称 | カズザキヨモギ | 生活型 | 多年草、分枝型 |
| 分布 | 本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布し、小笠原、朝鮮半島にも分布する。 | | | | |
| 形態 | <p>茎: 茎は叢生し、高さ 50 cm ~ 1 m になり、よく分枝する。</p> <p>葉: 茎の中部の葉は楕円形で長さ 6 ~ 12 cm、幅 4 ~ 8 cm、羽状に深く裂ける。裂片は 2 ~ 4 対、洋紙質で縁には鋸歯があり、互生する。葉の表面は緑色、裏面は綿毛を密生して灰白色となる。</p> <p>花: 花期は 9 ~ 10 月、花はすべて筒状花で、舌状花はない。頭花は大きな円錐花序で、小さい花が多数、枝ごとに穂になってつく。総苞は細い鐘形で長さ 2.5 ~ 3.5 mm、中に淡褐色の筒状花があり、周辺には雌花があって稔り、花芯には両性花が集まる。</p> | | | | |
| 類似種 | <p>ヒメヨモギは、やや乾いた草地に生える多年草で、茎丈は 1 ~ 1.2 m になり、ヨモギと同様に長い地下茎を出す。茎がやや紫色を帯びること、茎中部の葉はヨモギに比べて細く小型であること、花の形がヨモギの方が細長いことなどで区別される。</p> <p>オオヨモギは山地に生える大型多年草で、茎丈は 1.5 ~ 2 m になる。ヨモギよりも大型で、より高地に生える。頭花もヨモギよりも大きく、葉の裂片はヨモギに比べて鋭く尖っている点で区別される。</p> | | | | |
| 生息場所 | 河原や土手などのほか、山野や野原、路傍などにごく普通に生育する。ヨモギは路傍雑草群落(ヨモギクラス)の代表的な構成種である。 | | | | |
| 繁殖 | 種子および地下茎で繁殖する。風媒花で、秋に長さ約 1.5 mm の長楕円形の瘦果を形成し、中に種子ができる。主に地下茎を伸ばして増えるので、群生することが、多い。 | | | | |
| 他生物との関係 | ヒメアカタテハの食草となる。春は、若草の陰でヒバリなどが営巣したりする。 | | | | |
| 配慮のポイント | 生育場所の選択肢が広く、特に配慮する必要はない。 | | | | |
| トピック | 若草を茹でて餅に入れて草餅を作る。葉を乾燥させて白でつき、裏の綿毛を集めてもぐさを作り、灸に用いる。 | | | | |
| その他 | | | | | |
| 引用文献: 『川の生物図鑑』を改変 | | | | | |